

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 文化観光スポーツ部

区 分： 第1号

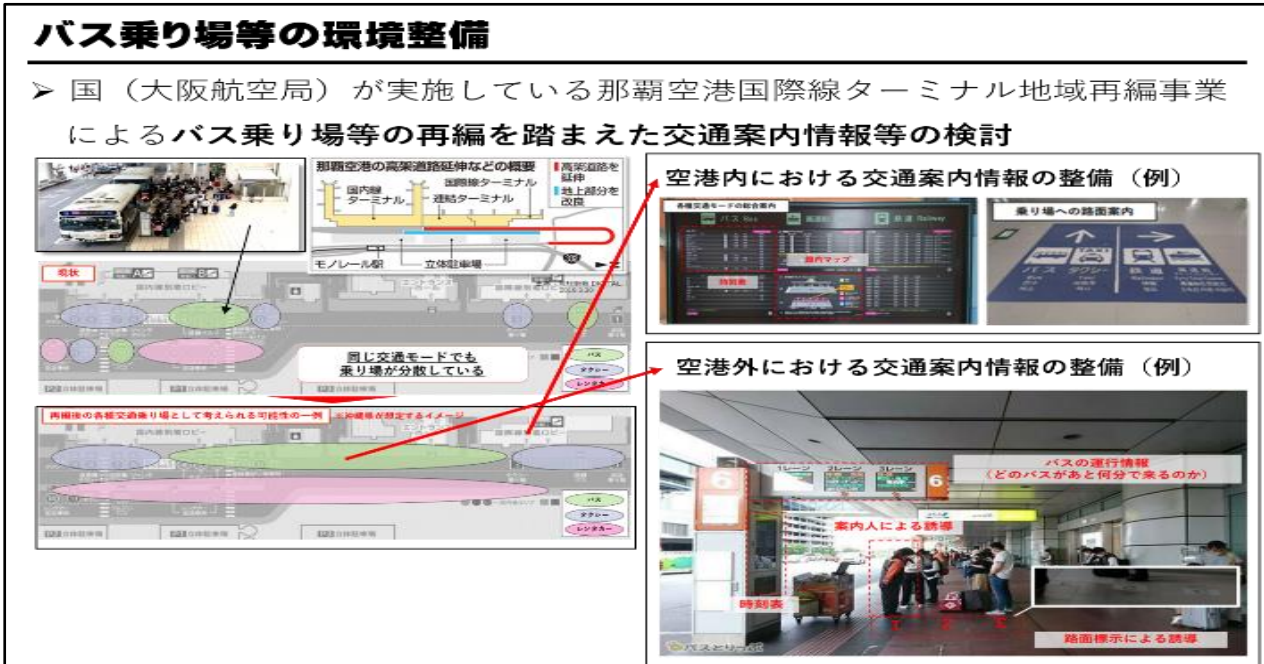
【事業名】

那覇空港観光2次交通対策事業（予算額：2,608千円）

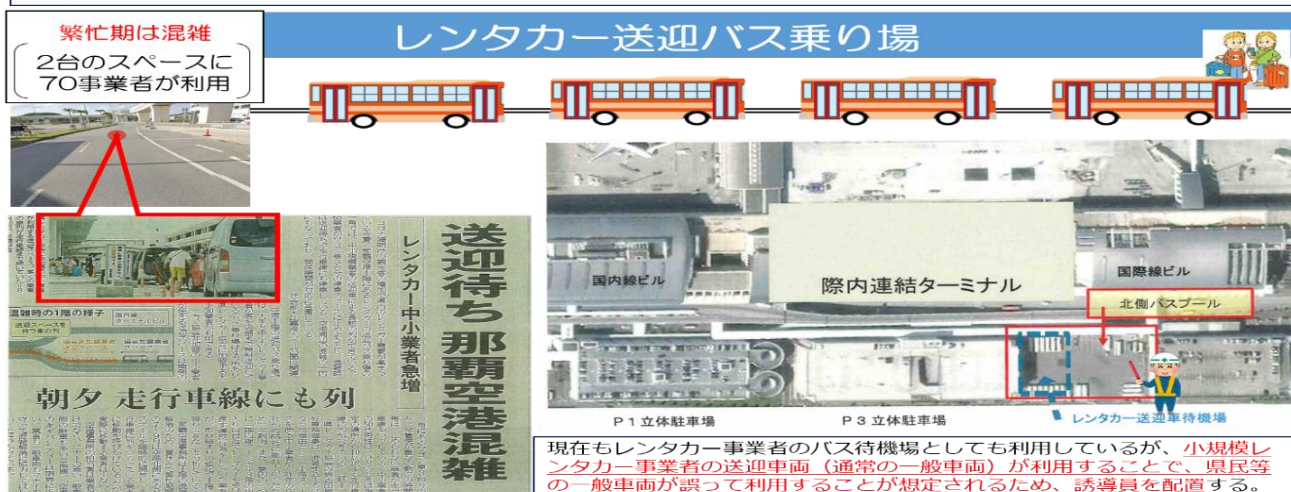
【事業の概要】

那覇空港に到着後の2次交通については、モノレールのほか、レンタカーやバス、タクシー等があるものの、公共交通を利用するための誘導（サイネージ等）が不足していることから、国が実施する那覇空港国際線ターミナル地域再編事業によるバス乗り場等の再編を踏まえ、環境整備を行うほか、繁忙期におけるレンタカー送迎車両の乗り場を確保する。

【スキーム図】

**レンタカー送迎車両乗り場の確保**（中央バスプールから北側バスプールに見直し）

那覇空港が狭隘であるため、**繁忙期**におけるレンタカー送迎バス乗り場が渋滞することから、**小規模なレンタカー事業者が運行する送迎車両（ワゴン等）の乗り場について、那覇空港を管理している大阪航空局那覇空港事務所やバス協会、レンタカー協会と連携し、北側バスプールの有効活用**を行う。



【現時点での実績】

繁忙期における那覇空港の渋滞対策として、大阪航空局那覇空港事務所や沖縄県レンタカー協会等と連携し、北側バスプールを活用し、レンタカー送迎車両の臨時駐車場の設置及び那覇空港ターミナル内での案内表示（北側バスプールへの誘導）を行った。

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 文化観光スポーツ部
区 分： 第1号

【事業名】

災害時等観光客避難支援事業（予算額： 31,086千円）

【事業の概要】

台風等災害時に帰宅困難となった観光客の滞在先（ホテル・県有施設等）の確保及び備蓄支援を行う。

①ホテル等を活用した観光客の滞在先の確保に係る支援

→市町村がホテル等を避難所として活用した際に、市町村に対して、7,000円/泊・人を上限として補助。

②①の設置訓練（年1回程度）

③災害発生に備えたホテル等への備蓄支援（食料・発電機等）

→①のホテル等に対する備蓄品の補助。

④県有施設における備蓄支援（食料・発電機等）

→県有施設を一時待機所等として活用する際の備蓄品の調達費用

※事業の運用ルール等の条件整備に関する意見交換（市町村・観光業界）を別途実施中。

①観光客避難に係る滞在費支援

災害救助法適用時

市町村の
避難所が
不足

市町村が
避難所として、
ホテルを指定

観光客が
ホテルに
避難

観光客の滞在費の
一部を国・県が支援
(7,000円/泊・人)

災害救助法が適用されていない時 ⇒ 本事業実施

市町村の
避難所が
不足

市町村が
避難所として、
ホテルを指定

観光客が
ホテルに
避難

観光振興基金を活用し
観光客の滞在費の
一部を県が支援
(7,000円/泊・人)

②宿泊施設等における避難準備費用支援

市町村が避難所として
活用するホテルを選定し、
事前協定等を結ぶ。

市町村が食料等の
備蓄を協定済みの
ホテルに事前提供

観光振興基金を活用し
市町村が備蓄購入に
要した費用の
一部を県が支援

【現時点での実績】

対象となる災害なし

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区分：第1号

【事業名】

観光2次交通結節点機能強化事業（予算額：142,719千円）

【事業の概要】

観光客の立ち寄りの多い地域・エリアを観光2次交通結節点として位置づけ、2次交通の利用促進と分散化を図るため、北谷町等での実証実験を行う。

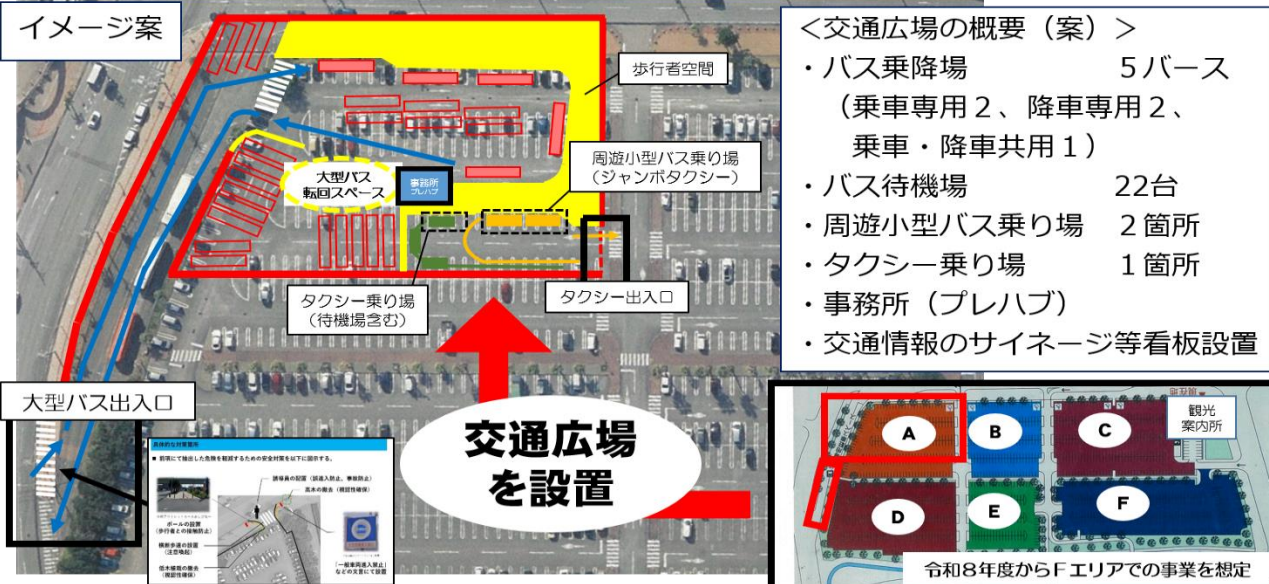
＜委託で実施予定＞

- ・交通広場の設置、運営に要する委託
- ・交通広場と近隣のレンタカー事業者の営業所やホテル等を周遊する小型バス等の運行

【スキーム図】

北谷町における観光2次交通結節点の実証事業（Aエリア） 沖縄県

- 沖縄県と北谷町が連携し、観光客の滞在拠点となっている北谷町美浜エリアを観光二次交通結節点と位置づけ、バスやタクシーが乗降できる乗り場のほか、多様な移動手段と乗換えが出来る交通広場を北谷町営駐車場に設置し、近隣のレンタカー事業者の営業所やホテル等を周遊する小型のバス等を運行する実証事業を実施する。
- また、那覇空港からの直行バスの実証事業（別事業で検討中。**有償旅客を想定**）や同交通広場と観光施設等を運行するバス事業者等に対する支援（補助金）を併せて実施する。



【現時点での実績】

令和6年7月25日より、観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」を設置し、ターミナルとしての運用を行うほか、那覇空港からの直行バス、美浜エリア周遊バス等の実証事業を行っている。

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 文化観光スポーツ部

区 分： 第1号

【事業名】

観光2次交通利用促進事業（予算額：18,105千円）

【事業の概要】

沖縄観光の交通手段については、レンタカーが主流となっているものの、国際線の復便や車の免許を持たない観光客の観光2次交通を確保するため、繁忙期において、市町村、旅行事業者、交通事業者等が行う観光2次交通の確保（観光施設や観光地域を結ぶ運行等）に要する経費に対し、補助金を交付する。

<補助率>

1／2（ただし、2年目は1／3、3年目は1／4）

<上限額>

300万円／台（ただし、車種の大きさや運行日数等で異なる）

<補助の対象となる事業>

次の区間を1日あたり最低3往復バス等で運行する事業（ただし、2地点だけではなく、需要等に応じ、2地点以上の運行をする場合も補助の対象とする）

ア 観光客が多く訪れる観光施設や観光地域（以下「観光施設等」）を結ぶ区間

イ 沖縄県が別で実施する観光2次交通結節点機能強化事業において、北谷町に設置された北谷町美浜駐車場交通広場と観光施設等を結ぶ区間（未実施）

ウ バスターミナルやモノレール駅のほか、市町村が計画している交通結節点と観光施設等を結ぶ区間

エ その他、沖縄県が観光客の交通手段の確保として必要と認めた区間

<補助想定件数（令和6年度）>

10件程度

【スキーム図】



【事業概要】

令和5年度からの継続事業に対する支援のほか、令和6年度からの新規区間の運行に対し、支援する。（補助事業）

【現時点での実績】

以下のバス運行に対する補助事業を実施した。

- ・那覇空港—（国際通り経由）観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」
- ・観光2次交通結節点「北谷ゲートウェイ」—北部リゾートエリア
- ・県議会前—ウミカジテラス・首里城・アメリカンビレッジ

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 文化観光スポーツ部
区 分： 第1号

【事業名】

マリンレジャー事故防止事業（予算額：115,836千円）

【事業の概要】

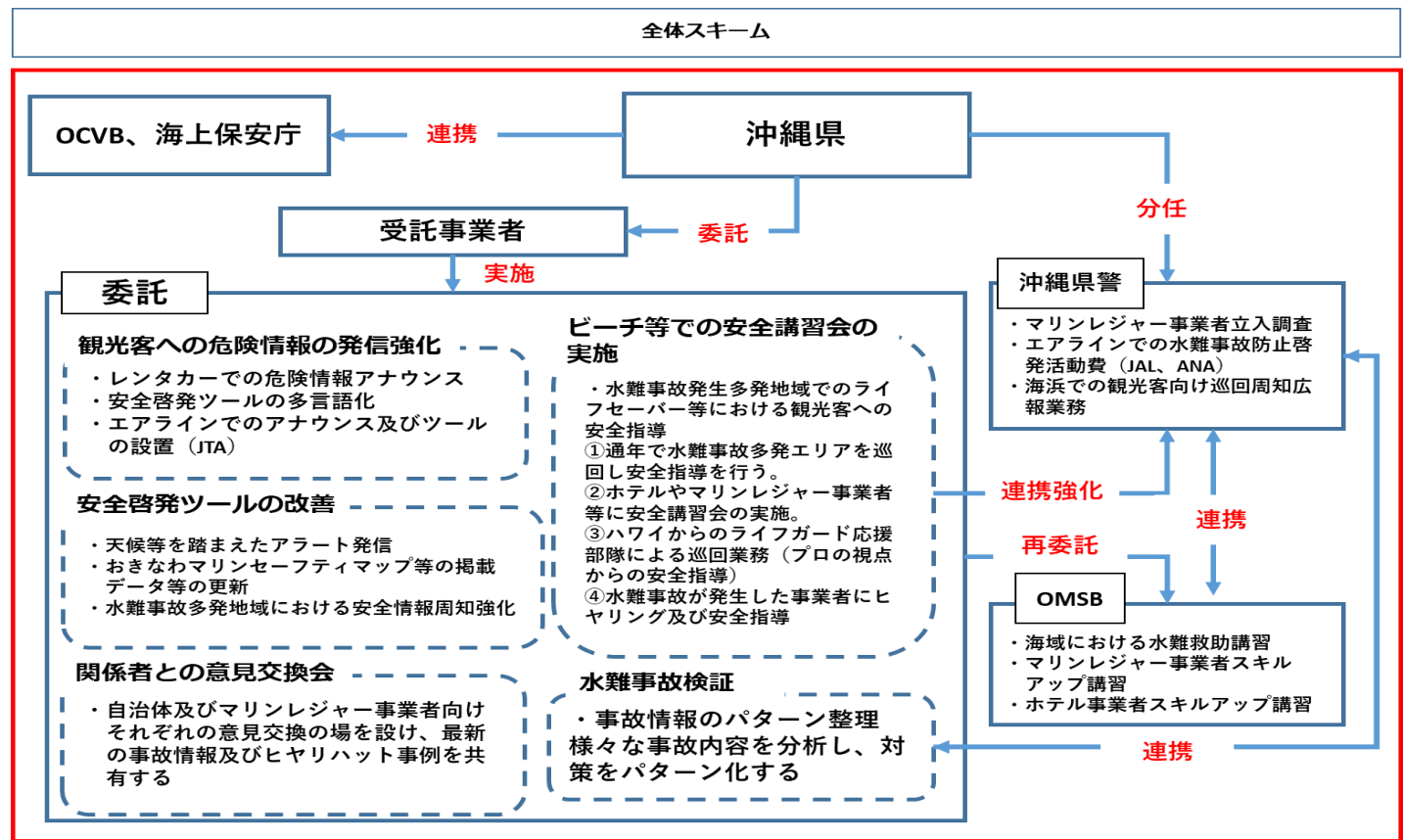
ビーチや海岸の概要及び事故発生状況を含むハザードマップシステムの継続的な広報を行うとともに、安全にマリンレジャーを楽しむための動画等を取りまとめたポータルサイト「沖縄マリンセーフティ」を観光客に対して海の危険性及び正しい知識を周知し、事業者に対しては最新の事故及びヒヤリハット事例等を提供することで水難事故防止へと繋げる。

また、水難事故防止に関する取組を行っている団体及び関係機関と連携する事でマリンレジャーに係る受入体制の整備強化を図る。

【取組内容】

- ①観光客への危険情報の発信強化
 - ・レンタカーでの危険情報アナウンス ・インバウンド観光客向け多言語化
 - ・エアラインでのアナウンス及びツールの設置
- ②海の安全啓発ツールの改善
 - ・天候を踏まえたアラート発信 ・水難事故多発地域における安全情報周知強化
- ③関係者との意見交換会（自治体及びマリンレジャー事業向け意見交換会）
- ④ビーチ等での安全講習会の実施
稼働期間：沖縄ライフセーバー6人×11ヶ月 ハワイプロライフガード4人×4ヶ月
安全指導エリア 沖縄本島エリア 八重山エリア 宮古エリア
ホテル事業者及びマリンレジャー事業者等の海域における水難救助スキルアップ講習
月12回×10ヶ月
- ⑤水難事故要因検証

【スキーム図】



【現時点での実績】

- ①観光客への危険情報の発信強化
 - ・インバウンド観光客向け多言語化（リーフレット、おきなわマリンセーフティの英語、韓国語、中国語対応）
 - ・エアラインでのアナウンス及びツールの設置（JTA機内動画放映、JTA機内誌掲載 9/1-10/31）
- ②海の安全啓発ツールの改善
 - ・水難事故多発地域における安全情報周知強化
- ③関係者との意見交換会（自治体及びマリンレジャー事業向け意見交換会）
 - ・＜八重山圏域＞
日程：令和6年11月5日（火）
＜宮古圏域＞
日程：令和6年11月6日（水）
＜沖縄本島中南部圏域＞
日程：令和6年11月18日（月）
＜沖縄本島北部圏域＞
日程：令和6年11月19日（火）
- ④ビーチ等での安全講習会の実施
稼働期間：5月～11月（恩納村）、沖縄本島、座間味島、宮古島、八重山圏域（6月～9月）
ホテル事業者及びマリンレジャー事業者等の海域における水難救助スキルアップ講習
実施回数：14回、受講人数：230名、実施場所：座間味村、石垣市、宮古島市、名護市、恩納村、北谷町、豊見城市
- ⑤水難事故要因検証
 - ・水難事故統計データの分析（年代、性別、レジャー等集計）
 - ・海域調査

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担 当 部 局：文化観光スポーツ部

区 分：第1号

【事業名】

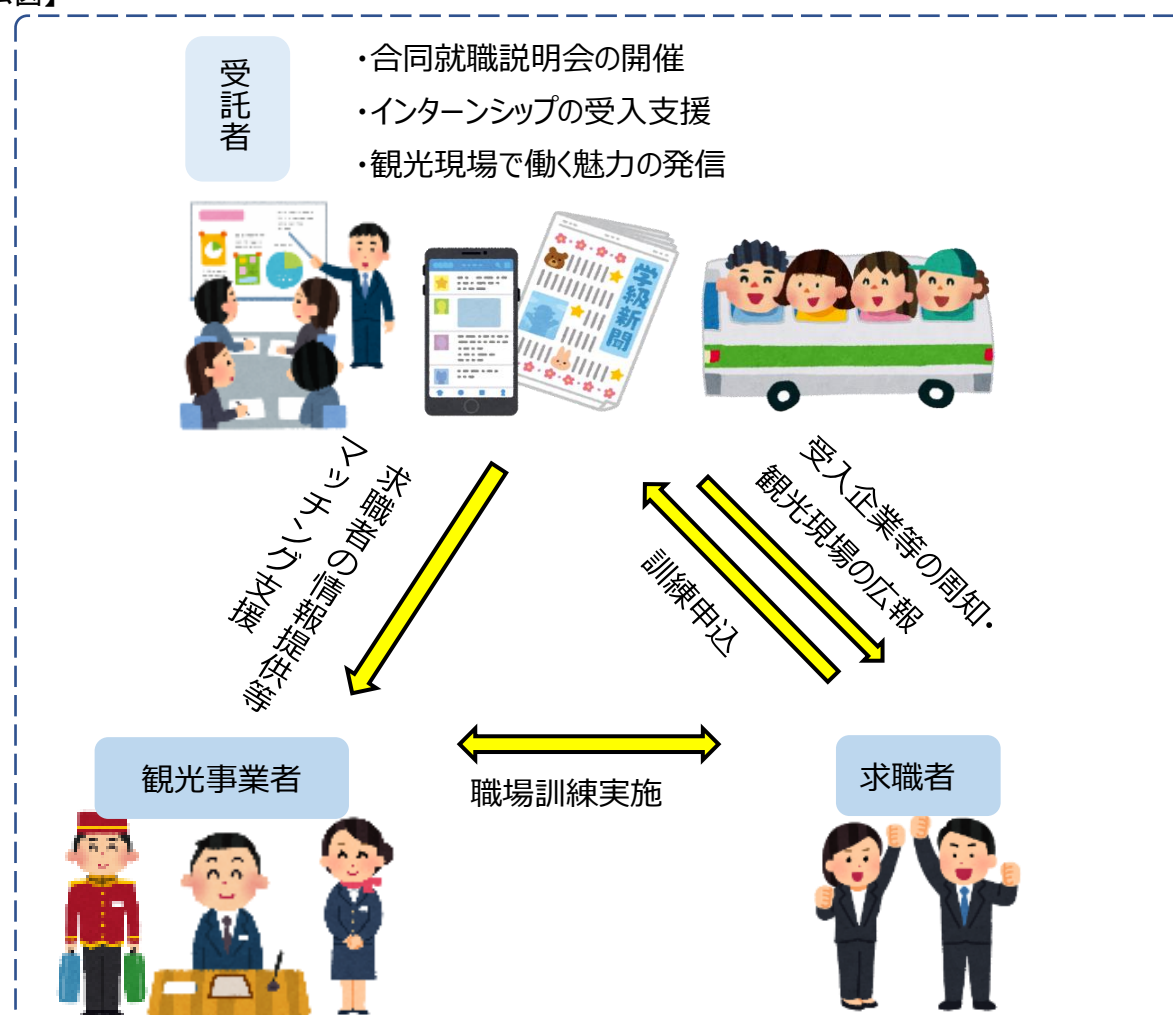
観光人材確保支援事業（予算額：357,068千円）

【事業の概要】

県内外での合同就職説明会の開催やインターンシップを促進することにより、観光事業者と求職者のマッチング機会を創出するほか、観光現場で働く魅力を発信し、観光業界における人手不足の解消および就労意欲の向上を図る。

- ①県内外での合同就職説明会
 - ・観光業界に特化した合同就職説明会を開催する
 - ・実施回数：海外、県外、県内 計15回を予定
- ②求職者を対象としたインターンシップの促進
 - ・海外、県外、県内から200人を受入予定。
 - ・対象者：観光業界を目指す求職者（学生・一般問わず）
- ③観光現場で働く魅力の発信
 - ・観光現場における様々な取組を伝える広報（Webサイト、SNS、新聞等）
 - ・職場見学バスツアーの運営
 - ・学生を対象にしたおしごと体験イベントの運営

【スキーム図】



【現時点での実績】

- ①合同就職説明会：9月25日時点で、海外1回、県外5回、県内3回開催し、延べ619名の求職者が参加。
- ②インターンシップ受入：受入企業51社、インターン参加者181名
- ③職場見学バスツアー：本島、離島で計12回催行し、延べ180名が参加。
- ④お仕事体験イベント：本島は9月9日から申込開始し、現時点で1050名申込がある。
- ⑤観光現場で働く魅力を伝える広報：就活生の利用率が高い就活サイト（マイナビ、TURNS）において、沖縄の観光現場で働く事業者8社のインタビュー記事を掲載。

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区 分：第1号

【事業名】

MICE受入体制強化等事業（予算額：70,252千円）

【事業の概要】

県内MICE関連事業者の受入体制の強化を図り、国内外のMICE需要を取り込むため、専門的な人材の育成や専門家からの指導・助言を行うとともに、県内で開催されるMICEに支援メニューを通じて参加者の満足度向上を図る。

- ・ MICE人材育成事業
国内外でのMICE誘致・プロモーション活動の強化や受入体制整備を担うMICE専門の人材育成を目的として全8回のセミナーを実施
実施期間：令和6年5月頃～令和7年2月末日まで
対 象 者：MICE未経験者～県内MICE関連事業者（初級～応用編）
- ・ アドバイザー派遣事業
MICE主催者ニーズに対応可能な能力・技能の向上やサービスの拡充を図るため、専門アドバイザー派遣により助言・指導を行う。
実施期間：令和6年4月頃～令和7年3月末日まで
対 象 者：県内MICE関連事業者（1社につき最大4回まで派遣可、1派遣 2時間程度）
- ・ 開催歓迎事業（おもてなしメニュー）
県内で開催されるMICEの満足度向上を目的として実施
実施期間：令和6年4月1日～令和7年3月末日まで
支援対象：ミーティング（M）・インセンティブ（I）・コンベンション（C）
県外（海外含む）からの参加者100名（国際会議は50名）以上
支援内容：以下のうちいずれか1つ
 - ・ 空港等での歓迎式
 - ・ 観光PR大使の派遣（マハエ・マハ朗）
 - ・ 芸能アトラクションの派遣
 - ・ 泡盛試飲ブースの設置
 - ・ 琉装体験ブースの設置
 - ・ コングレスバックの提供（M・Cに限り併用可）

【スキーム図】



【現時点での実績】

- ・ MICE人材育成事業について、基礎編の講座が終了しており、55名が参加している。
- ・ アドバイザー派遣事業について、3社から応募があり合計3回専門アドバイザー派遣を行っている。
- ・ 開催歓迎事業について、全メニュー合計で80回の歓迎支援が行われている。

・ 芸能アトラクションの派遣	41件	
・ コングレスバックの提供	16件	※併用可
・ 泡盛試飲ブースの設置	13件	
・ 沖縄観光PR大使派遣	5件	
・ 琉装体験ブースの設置	1件	
・ 空港等での歓迎式	3件	
・ 瓦割体験ブースの設置	1件	

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 環境部

区 分： 第2号

【事業名】

世界自然遺産地域活動支援事業（予算額：5,700千円）

【事業の概要】

【目的】

観光客の更なる増加に対応し、世界自然遺産となった沖縄島北部及び西表島の豊かな自然環境を守りながら、魅力ある観光地の形成を図るため、世界自然遺産地域の環境保全活動や利用ルールの普及啓発、人材育成の取組など、民間団体等による世界自然遺産地域を中心とした観光地における環境及び良好な景観の保全に資する地域活動を支援する。

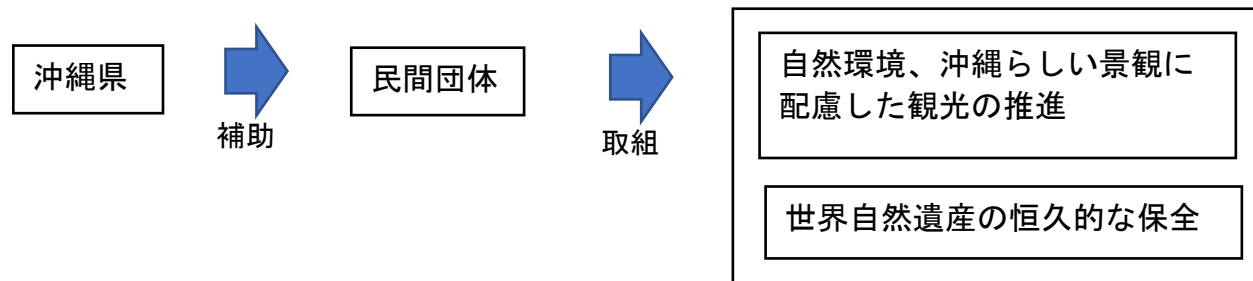
- (1) 実施期間 令和6年～10年
- (2) 交付対象 世界自然遺産地域を中心に活動する県内民間団体・NPO法人等
- (3) 補助額 1団体あたり3,000千円以内（2団体を想定）
※令和7年度以降は3団体（継続2・新規1）を想定
- (4) 補助率 9/10
※支援期間：1団体につき最長3年
- (5) 補助対象 世界自然遺産地域を中心とした観光地における
環境及び良好な景観の保全に資する取組
※既存の取組の拡充を図るものや新たに取組むものを対象とする。
※県の事業により委託等で実施している場合は対象外とする。

- ・ 自然環境の活用、保全、継承
- ・ 観光地景観形成（森林域でのクリーン活動等）
- ・ 自然資源の利用ルールの周知・広報・PR
- ・ 豊かな自然環境や生物多様性の魅力を伝えるための人材育成

など

- (2) スケジュール 令和6年4～5月 募集・審査
令和6年6～令和7年2月 事業実施
令和7年3月 事業報告

【スキーム図】



【現時点での実績】

令和6年8月8日から9月3日にかけて公募を行ったところ、7団体の応募があり、令和6年9月13日に補助事業候補選定委員会を開催し、4団体（①特定非営利活動法人西表島エコツーリズム協会、②一般財団法人西表財団、③西表石垣国立公園パークボランティア連絡会、④世界自然遺産推進共同企業体）を採択した。

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 環境部
区 分： 第2号

【事業名】

サンゴ礁保全再生活動促進事業（予算額：31,586千円）

【事業の概要】

1 目的

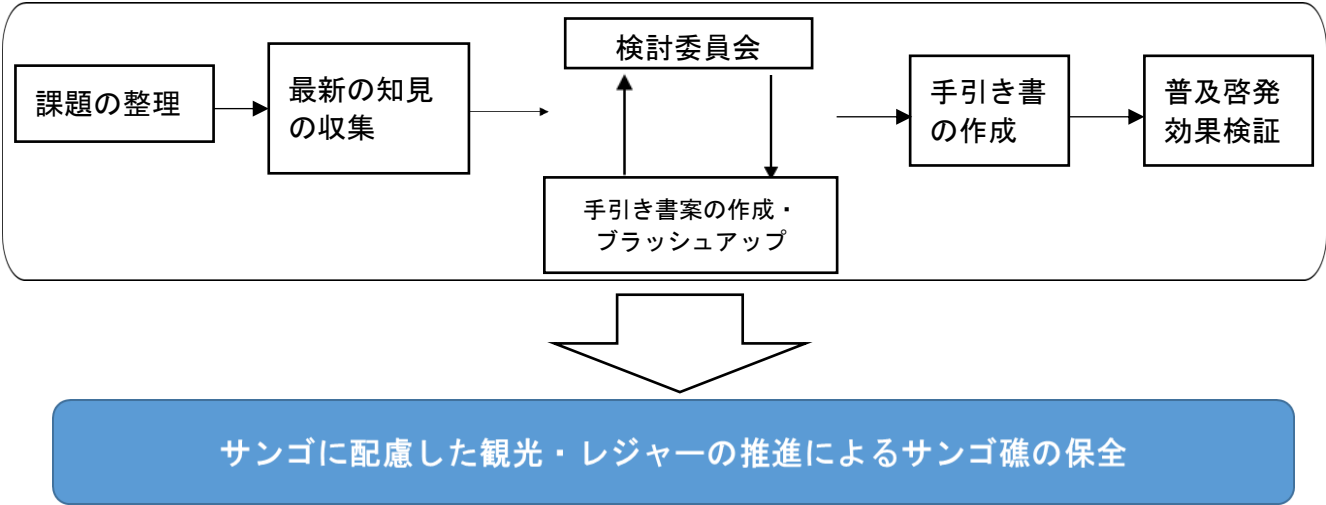
生物多様性の保全、観光資源・漁業資源として重要な価値を有しているサンゴ礁の保全を図るため、観光・レジャーによるサンゴ礁への影響を整理し、最新の知見を収集するとともに、観光・レジャー事業者向けのサンゴ礁保全のための普及啓発を行う。また、ダイビング船係留ブイの設置によるサンゴ礁保全への効果検証を行う。

2 事業期間 令和5年度～令和7年度

3 令和6年度実施計画

- （1）観光・レジャーによるサンゴ礁への影響の把握及び対策の検討
- （2）係留ブイの設置・利用によるサンゴ礁保全効果検証モデル事業の実施
- （3）日焼け止めクリーム含有成分等のサンゴ礁への影響の情報整理及び対策の検討
- （4）観光客・レジャー事業者向け普及啓発に係る手引き書案の作成
- （5）検討委員会の開催

【スキーム図】



【現時点での実績】

- ・係留ブイの設置・利用によるサンゴ礁保全効果検証モデル事業を実施（R6.9.25～）
- ・日焼け止めクリーム等化学物質によるサンゴへの影響の把握のための資料収集整理、対策検討
- ・観光客・レジャー事業者向け普及啓発に係る手引き書案の作成

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 文化観光スポーツ部
区 分： 第3号

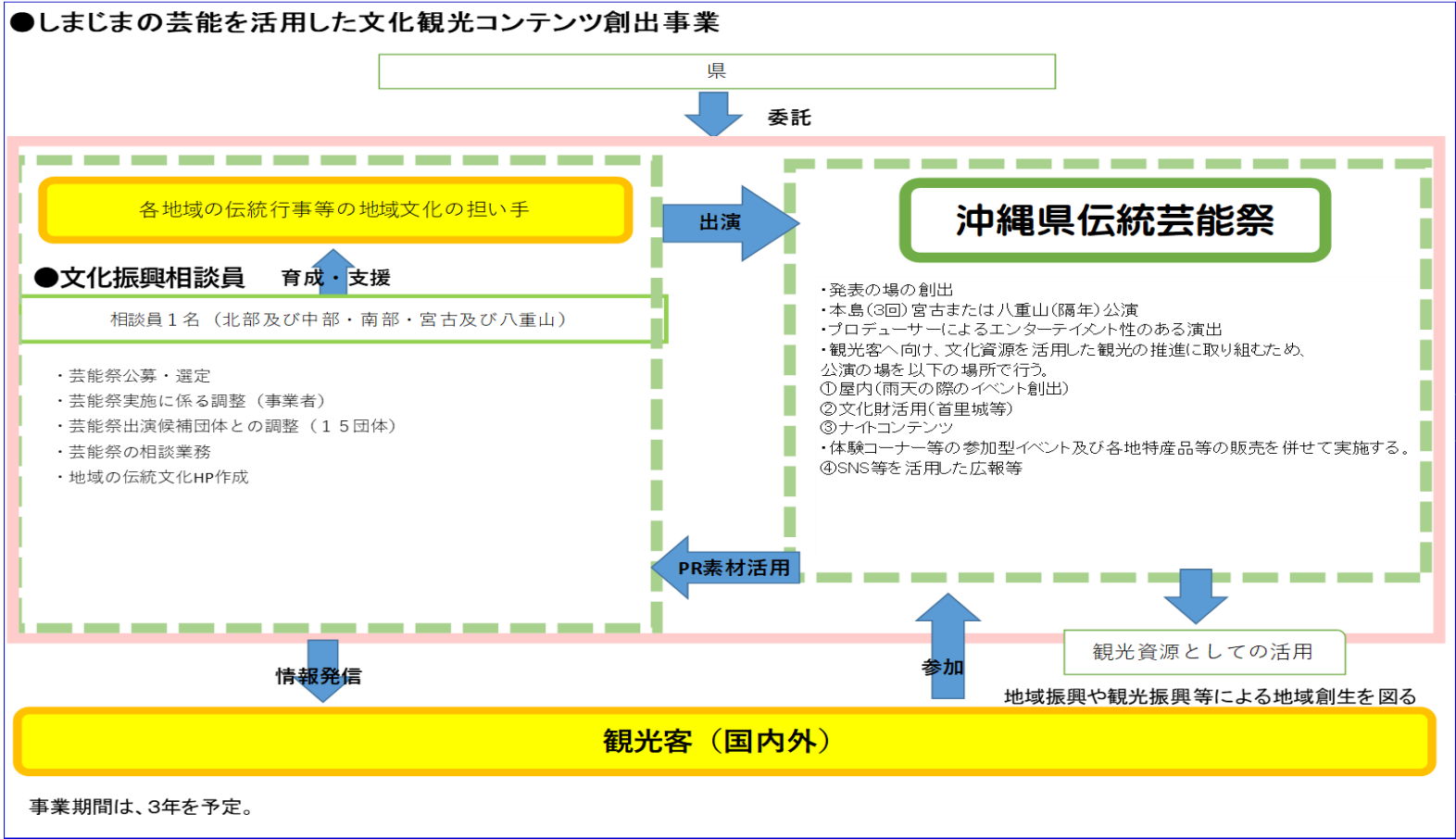
【事業名】

しまじまの芸能を活用した文化観光コンテンツ創出事業（予算額：43,697千円）

【事業の概要】

文化資源を活用した観光誘客を図り、文化観光の推進に取り組むため、「沖縄県伝統芸能祭」を本島及び離島地域で実施する。また、伝統芸能祭のプロモーションを行うとともに、伝統芸能等にかかる映像製作及び配信を行う。文化相談員は、直接地域へ入り伝統芸能団体へアプローチし、情報を収集、実態及び課題の把握に努めるとともに、地域が主体となった活動継続のための支援を行う。

【スキーム図】



【R6年度の具体的な取組】

- Heart of Ryukyu～しまじまの芸能祭～
開催時期：9月～12月頃 開催場所：沖縄本島内2回以上、離島（八重山）1回
- 文化相談員によるハンズオン支援、観光・商業分野とのマッチング
R5年度実態調査でハンズオン支援を希望した団体57団体（調査回答団体の約45.6%）を中心に引き続き相談支援を実施。地域のニーズを踏まえ、芸能祭への出演や観光業とのマッチングなど、地域芸能を活性化させることにより文化観光を推進する。
- 情報発信
R5年度実施の実態調査を基に、各地域の伝統行事等(125団体)の日程や動画コンテンツ等を集約しデータベース化するなど、特設サイトの情報を更に充実させ、SNS等を活用して国内外に向けた情報発信を強化する。

【現時点での実績】

- Heart of Ryukyu～しまじまの芸能祭～
開催時期：10月26日(土)、27日(日)開催場所：首里城公園
1月12日開催場所：石垣市民ホール
- 文化相談員によるハンズオン支援、観光・商業分野とのマッチング
令和6年度のハンズオン支援（①課題解決、②観光コンテンツ化への磨き上げ、③新規団体の掘り起し）の成果指標を設定し、事業計画を拡充した。令和6年度は①課題解決の取組として本島地域（北部・中部・南部）個別相談会を開催予定。またキーパーソン観光コンテンツ化の要となるキーパーソンの掘り起しと、横の連携を構築するためキーパーソン座談会を開催予定としている。
- 情報発信
各地域の伝統行事等(125団体)の情報や令和5年度しまじまの芸能祭に出演した団体の動画集約しデータベース化するなど、特設サイトの情報を更に充実させている。

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局：文化観光スポーツ部

区 分：第3号

【事業名】

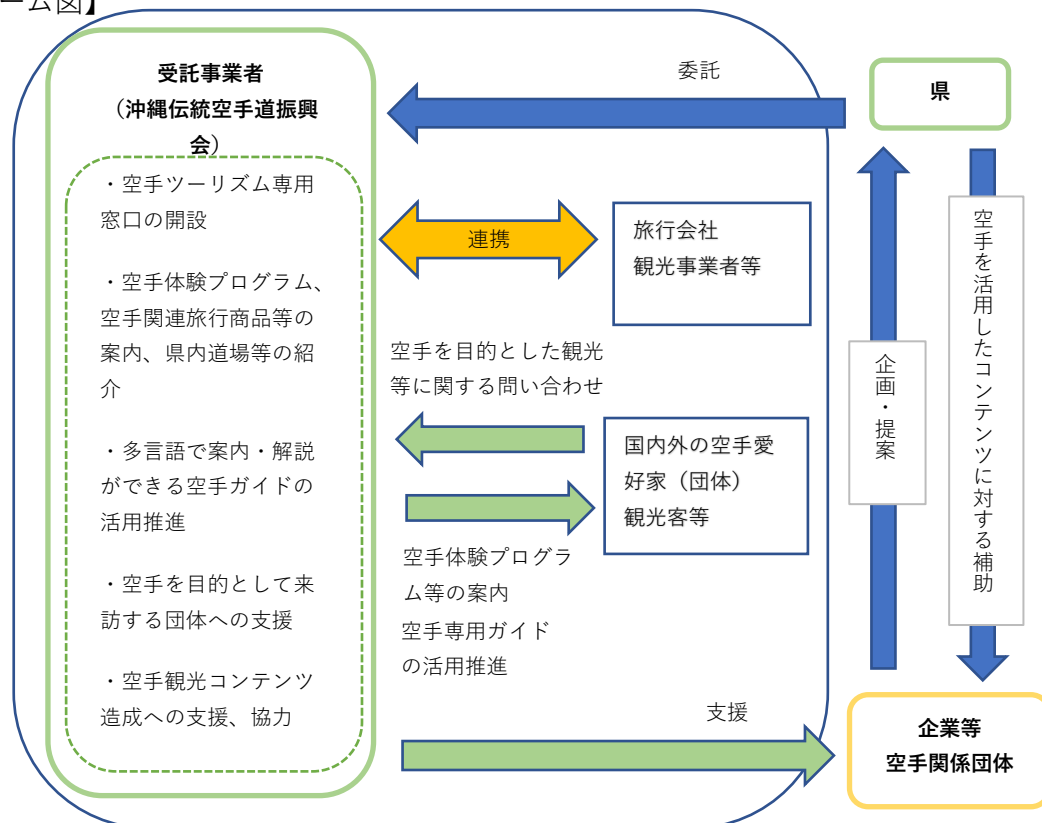
空手ツーリズム受入体制構築事業（予算額：36,317千円）

【事業の概要】

沖縄空手を文化観光資源として活用した空手ツーリズムを推進し、国内外からの空手愛好家（ヘビー層）や観光客（ライト層）の受入体制構築、強化及び満足度向上に取り組み、沖縄空手の持続的な発展、観光産業への寄与を図る。

- ①空手観光窓口を設置し、来沖中の空手愛好家を含めた観光客のニーズに応じた空手観光プログラム等の案内
- ②多言語で案内・解説ができる沖縄空手ガイドの活用推進を図るための周知・広報
- ③空手を目的として来訪する団体へのおもてなし支援
- ④空手による来訪ニーズを見込んだ沖縄空手観光コンテンツの造成支援

【スキーム図】



【現時点での実績】

(1)委託事業

令和5年度に開設した空手に関する観光窓口（空手ツーリズムウェブサイト）を運用し、空手ツーリズムに対する相談対応や案内業務を行っている。また、空手観光に関する名所等の調査及びウェブサイトでの公表を行っているほか、補助事業のハンズオン支援を実施している。

令和6年度からは、新たな取組として、空手を目的として来訪する団体に対し、空手オリジナルグッズの配布、空手ガイド及び空手オリジナルキャラクター派遣のおもてなし支援を行うとともに、支援を受けた来訪者に対するアンケート調査を実施している。

(2)補助事業

旅行会社が造成する空手観光コンテンツへの補助を2件交付決定済み。

①補助金額：3,899千円、内容：古武道体験、

古武道の歴史や文化を学ぶツアー造成等

②補助金額：4,986千円、内容：空手×エアロビクス、

空手セミナー及びゆかりの地巡りツアー造成等

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 文化観光スポーツ部

区 分： 第3号

【事業名】

新たなアクティビティを活用したスポーツツーリズムコンテンツ創出事業
(予算額：22,110千円)

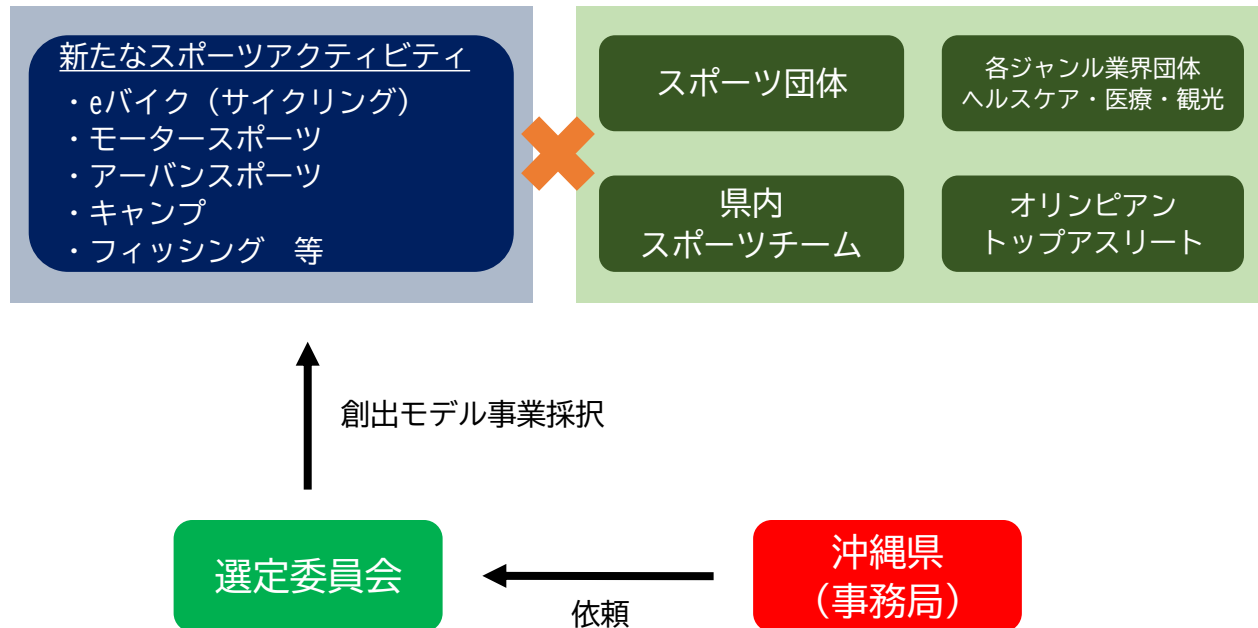
【事業の概要】

本県スポーツ市場の拡大に向け、スポーツコンベンションやスポーツツーリズムの強化が必要となるため、新たなコンテンツの開発に取り組み、地域経済の活性化を推進する。

補助の対象となるスポーツアクティビティは、県内で今後ツーリズムコンテンツとしての活用が見込まれるアクティビティ（自転車活用、ランニング、モーター、アーバン、武道、アウトドアなど）とする。

【補助率】 3分の2以内（補助上限額 5,000千円）

【スキーム図】



【現時点での実績】

補助事業の提案を公募し、外部有識者等により構成される審査委員会の審査を経て、補助金の交付決定を行った。今後は補助事業の事業進捗を管理し、新たなコンテンツの創出を図る。

【公募期間】 令和6年7月1日～29日

【審査委員会】 令和6年8月7日

【応募】 6件（前年度比+2件）

【交付決定】 3件（前年度同数）

（交付決定事業者名） （株）FUNBASE、（株）まるとまると、Add One（株）

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業 個票

担当部局： 文化観光スポーツ部
区 分： 第4号

【事業名】

サステナブルツーリズム推進事業（予算額： 28,406千円）

【事業の概要】

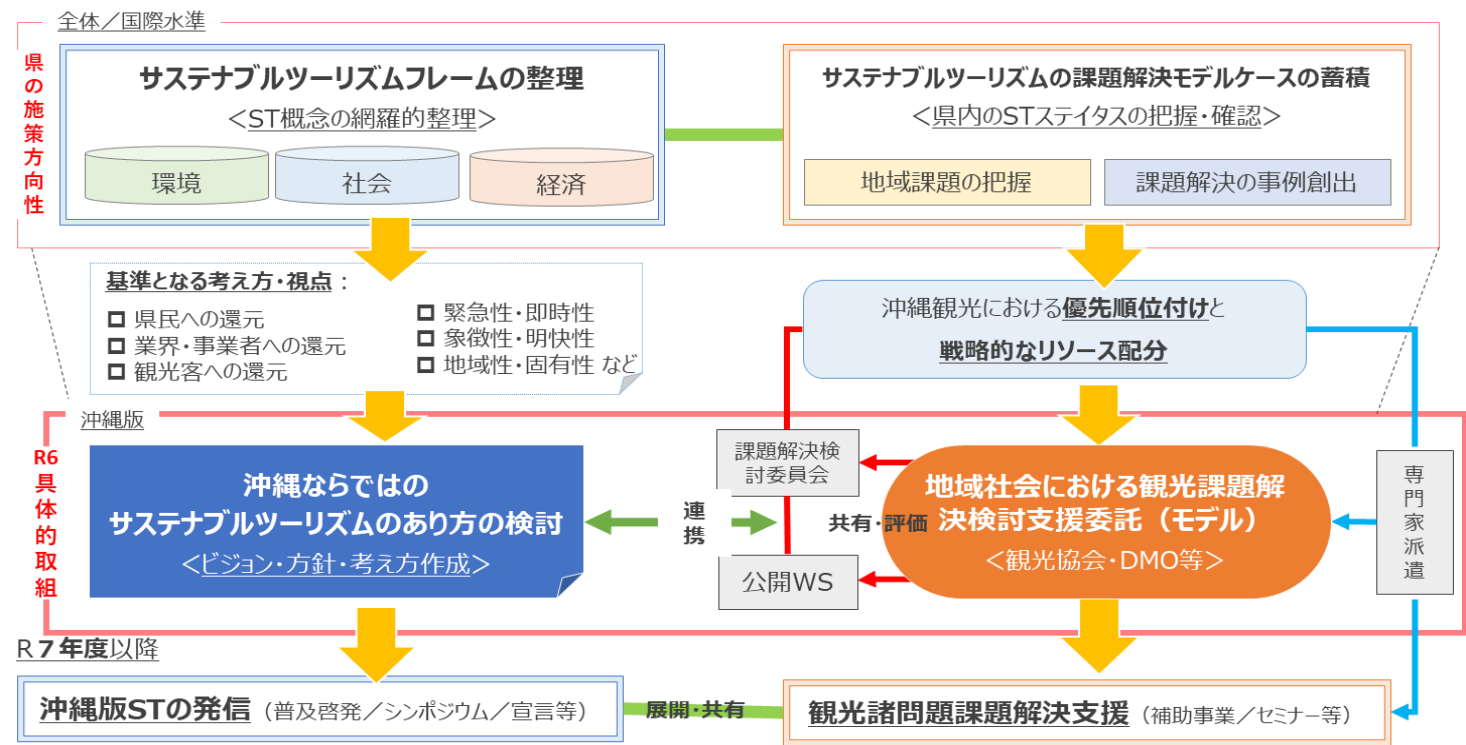
国内外の観光需要が急速に回復し、一部の地域では観光客が集中することにより過度な混雑や地域のルールを無視した観光によって地域住民の生活への影響や旅行者の満足度低下への懸念も生じている状況であり、適切な対処（観光諸問題解決）を必要としている。

本県においては、持続可能な観光（サステナブルツーリズム）を目指すため各エリアで起きている観光諸問題を解決し、観光客の受入と住民生活の質の確保を両立しつつ、地域の実情に応じた具体策を講じる。

そのため、適切な課題の把握や沖縄観光の優先的な課題解決を行うことによりモデルケースを確保し総合的な支援を行う。

- ①エリア毎で起きている各分野（環境、経済、社会）の観光諸問題を解決するため、そのエリアを管理している管理者へ専門家を派遣し、取組支援を行う。
 - ・支援前に専門家を派遣し、管理者へヒアリングを徹底的に行い、観光諸問題の課題整理、優先度の確認、支援テーマのすり合わせを行う。
 - ・管理者、専門家、沖縄県の三者でまとめた「改善支援計画書」を作成し、合意のもと取組を行う。
 - ・取組に係る費用を支援し、取組開始から終了後まで、フォロー。
- ②相談窓口の設置
 - ・専門家派遣後、課題解決支援に向けた取組のプロセス設定と進捗管理を行う。
- ③シンポジウムの開催
 - ・市町村、観光協会、観光関連事業者、県民を対象とした「沖縄サステナブルMEETING」を開催し、当該取組結果を共有し、持続可能な観光地形成に向けた意識共有と取組啓発を行う。
- ④サステナブル検討委員会

【スキーム図】



【現時点での実績】

- ①実態調査
 - ・県内取組の15事例に対しヒアリングを実施、レポートを作成中。
- ②補助金事業
 - ・二次公募まで実施し、3件採択。うち1件について専門家派遣を実施予定。
- ③検討委員会
 - ・1回目の委員会を開催し、方向性を確認。今後、県のサステナブルツーリズムの理念や取組方針、内容の発信方法を含めて検討を進めていく予定。

令和6年度 沖縄県観光振興基金活用事業個票

担当部局：文化観光スポーツ部
区分：第1号

【事業名】

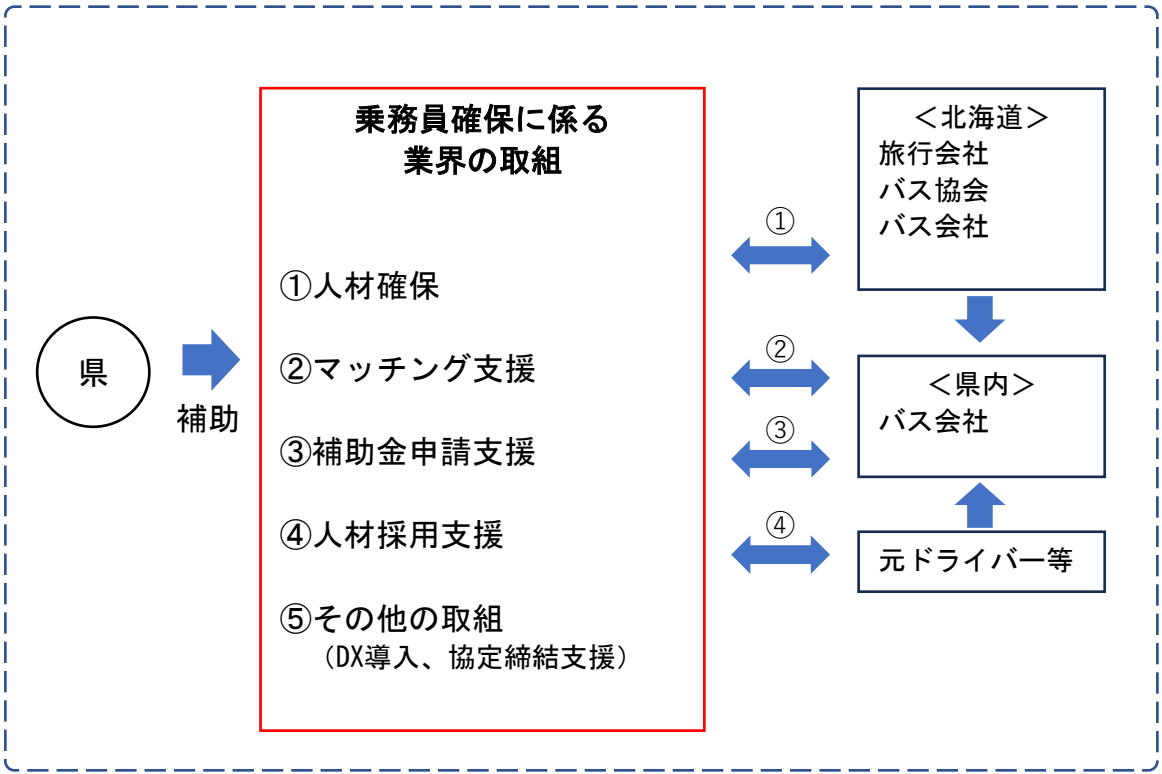
修学旅行等貸切バス受入体制強化事業（予算額：28,716千円）

【事業の概要】

沖縄県バス協会及びJATA（一般社団法人日本旅行業協会沖縄支部）の連携により運営する「修学旅行等貸切バス予約・配車センター」を設置し、シーズンオフの北海道等県外からの乗務員等確保及び県内バス会社とのマッチング業務を行う。あわせて昨年度から実施している「修学旅行貸切バス等受入体制緊急支援事業」の補助申請の周知、申請サポート支援を行う。

- ・対象者：委託先（沖縄県バス協会及びJATA）
- ・対象人数：バス会社55者、旅行社4者
- ・実施期間：令和6年8月1日～令和6年12月31日

【スキーム図】



【現時点での実績】

- ・補助金交付決定額 27,765千円（執行率100%）、旅費執行額 319千円（執行率34%）
- ・県外からの招聘予定数 バス運転手46名、バスガイド23名
- ・未手配バス0台 未手配バスは解消した。